

それぞれの精一杯

横浜共立学園中学校 3年

わたなべ さやか
渡辺 紗香

「30億」。何の数字かわかるでしょうか。これは50年間で地球から消えた野鳥の数です。今、世界では、鳥だけでなくその他多くの動植物の急減、自然破壊など様々な環境問題が深刻化してきています。地球温暖化によって住処を追われるホッキョクグマ、酸性雨によって溶けた銅像、更には海に浮かぶ無数のゴミ……。数えだしたらきりがありません。しかも多くが人間の活動によるものだと言われています。これ以上地球の自然が失われることを防ぐために、私たちは何をすべきなのでしょう。

私は先日、ある映画を見ました。「グランド・ジャーニー」という、フランスの映画です。ゲームに夢中な主人公・トマには、渡り鳥の研究をしている父がいます。そんな父が絶滅寸前の渡り鳥を救うために思い付いた、「自分たちが親代わりとなって鳥を一から育て、超小型飛行機で鳥と一緒に飛び安全な渡りのルートを教える。」という計画に協力させられたトマでしたが、次第に興味を持っていきます。そして遂にトマは鳥との「渡り」を成功させます。そんな冒険の物語です。驚くべきことに、この映画は実話に基づいており、撮影も主人公のモデルとなった人物の脚本のもと、ほぼCG無しで行われたそうです。

私はこの映画を見た時、まず飛行シーンの圧倒的な映像の素晴らしさに感銘を受けました。どうしたらこんな映像が撮れるのだろう。人間が操縦する飛行機に鳥がついて行くなんて本当なのか、と。ほとんどの飛行シーンをキャストの方々が実際に飛行機に乗って撮影したそうですからとても驚きました。

何より映画の元となった実話に関心を持ったので調べてみました。モデルとなったクリスチャン・ムレク氏は、1995年、絶滅危惧種のカリガネガンが、ドイツからスウェーデンへと苦勞して渡る姿を目の当たりにし、飛行機で誘導しようと思いついたそうです。以来、ずっと夫婦でその活動を続け、鳥との「渡り」の映像を通して、環境保護を訴え続けています。ムレク氏はこんなことを話していました。「世界の役に立っていると思う。鳥の生物多様

性を守りながらみんなに夢を与えている。」まさしく、その通りだと思いました。私もこの夫婦のように強い意志を持って環境のために何かできたら。そう思いました。

では、どのようにすればこの夫婦のように、現代を生きる私達皆が、環境保全の為の活動を起こしていけるのでしょうか。私は、一人一人が様々なことに小さな意識を持ち、毎日の生活を過ごしていくことが大切だと思います。例えば散歩のついでゴミ拾い、などです。ありきたりな、ほんの小さな、些細なことでもいいんです。そうやって日々多くの人が少しずつ小さな意識を積み重ねていけば、いつか大きな意識へと繋がっていくのではないのでしょうか。「グランド・ジャーニー」のトマのように、興味を持ち、行動するようになるかもしれません。「ついでのごみ拾い」が当時者の気持ち次第で「ボランティア活動」に変わるかもしれないのです。どんなに些細なことでも、私達にできることをそれぞれが続けていくことがとても重要です。

ムレク氏の妻、パオラさんは次のように思いを語っています。「壊れゆく環境には焼け石に水かもしれない。それでも私達が活動を続けるのは、これしかできないから。」

私は今後、自分ができる限りの精一杯を見つけて実行したいと思います。地球の未来が明るいものであることを信じて。